

過疎だけにとぎやかな町。斬新なチャレンジを歓迎し、応援する寛容さにあふれ、様々な人がこぞって集う、活気ある町。

新しい時代の中でも決して埋もれることなく、小さいながらもキラリと光る存在でありたい。

新しいまちづくりの合言葉、「にぎやかそ」にはそんな思いが込められています。

みんなが笑顔で夢を語れる町を目指して取り組む、美波町の地方創生を紹介します。

## 【シリーズ】映画にも描かれた地方創生、「美波町モデル」とは

### Vol.4 次のステップへ！先進的地域としての期待を担う美波町

#### ■ 石田総務大臣が美波町の地方創生を視察！

8月23日に総務省より発表された最新の状況調査(平成30年度末時点)では、サテライトオフィスを開設する企業が全国で444社にまで増えていることがわかりました。

平成24年の調査開始以来、毎年順調にその数を増やしていることから、総務省ではサテライトオフィスが誘致する地方自治体と進出する側の民間企業の双方に有用と捉えられていると分析しています。

今回の調査の中で、開設数全国1位となったのが、北海道と徳島県(64社が進出)。

その徳島県内で最高の19社進出(令和元年9月末現在)を誇るのが美波町です。

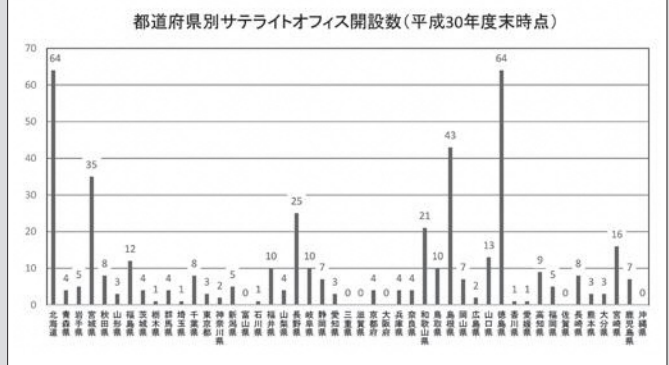
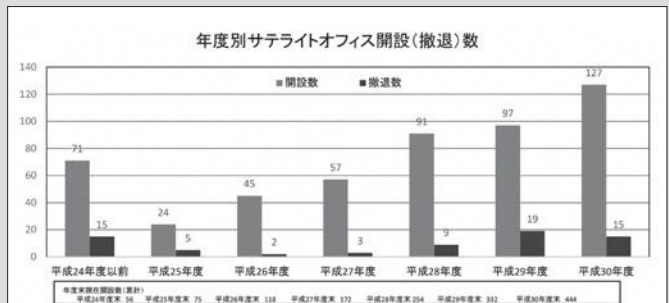
都市部への一極集中と地方からの人口流出。既に始まってしまっていると言われる人口減少問題の打開策として、ますます期待の高まるサテライトオフィス誘致・開設の現場を視察するため、総務大臣が美波町を訪れることとなりました。

2016年の山本幸三内閣府特命担当大臣(地方創生・規制改革)以来、2回目となる閣僚の美波町視察。6月に古賀友一郎総務大臣政務官も訪れたばかりですが、今回は石田真敏総務大臣をはじめ、総務省挙げての美波町訪問となりました。

9月5日の正午過ぎに美波に入られたご一行は、地域の基幹である第1次産業の6次産業化を目指すモデル店『odori』(山河内)で海部郡内3町長らと懇談。株式会社丸本の川口常務より、阿波尾鶏の生産におけるICTの利活用についての説明を受けました。

その後、美波町のサテライトオフィス誘致や「地方版IoT推進ラボ美波」の拠点でもあるミナミマ

リンラボへ移動し、影治町長や株式会社Skeedより、IoTを活用した「止まらない通信網」を活用した命



地方公共団体が誘致又は関与したサテライトオフィスの開設状況調査結果(総務省)



石田真敏総務大臣(9月5日当時)